

# 大学出版

The Association of  
Japanese University Presses

No.129

2022.2

冬

大学と社会を結ぶ 知のネットワーク

【特集】コロナ禍後の教科書

デジタル時代の教材設計を考える 島田英昭 1

デジタル教科書が広げる学びの姿 森下耕治 7

大学生協が目指す電子コンテンツの世界 岡田憲明 12

インドにおける教育のデジタル化と

オンライン学習の展開 小原優貴 17

【連載】何年経っても忘れられない、編集者の一冊《4》

ブリュノ・ラトウール著／伊藤嘉高訳

『社会的なものを組み直す』

——アクターネットワーク理論入門—— 高橋浩貴 表2

大学出版部ニュース 22



一般社団法人  
大学出版部協会

何年経っても忘れられない、編纂者の一冊(4)

ブリュノ・ラトゥール著／伊藤嘉高訳

『社会的なものを組み直す』——アクトーネットワーク理論入門

高橋浩貴（法政大学出版局）



自然も社会もヒトもモノも区別なく、あらゆる事物を等しくアクトーと見なし、そのつながりを捉えようとするアクトーネットワーク理論（ANT）のマニフェスト。ANTは哲学・社会学のみならずアートや経営組織論の分野でも注目されている。印刷所：日経印刷[法政大学出版局・2019年／四六判上製・588頁・定価5940円]

二〇二一年十一月、フランスの哲学者ブリュノ・ラトゥール氏が第三十六回京都賞（思想・芸術部門）を受賞された。その受賞者の多くがのちにノーベル賞を受賞することでも知られる日本発の国際賞である。ラトゥール氏のこの翻訳書は三年間で六刷を重ね、いまなお新しい読者を獲得し続けている。もちろん、企画当初は本書がこのような大きな反響を得られるなどとは思っていませんでした。だいたい入門書を謳いながら六〇〇頁に迫る大著である。

だが、私と訳者の間には、少なくともこれが重要な本であるという確信はあった。「話が細かくなるやいなや、社会学は例外なく反知性主義の立場へと後退する」（一九四頁）、「あなたは社会学理論を陰謀論と混同しているのではないでしょうか」（二八九頁）。挑発的な言葉の数々とは裏腹に、ラトゥール氏の主張は実に地味である。書け、書け、とにかく書け。動きを、流れを、変化を記述しろ。「私たちには、悲惨なまでに記述が欠けています」（二七八頁）。ここにあっては、むしろ研究者ならば当然とも言える姿勢である。

そして、本書の主題である「つながり」はSNS全盛時代のキーワードでもある。つい数年前までは考えもしなかった新たなつながりの形が、つぎつぎと現れる時代に、いかに地に足をつけてそれを記述するか。これはもしかしたら、これからの社会を論じるための基礎となりうる本なのではないか。

そこから先は本書を読んでいただくとして、刊行時に頭を抱えたのはほかでもない、ラトゥール氏の名前の表記だ。それまで広く読まれていた氏の翻訳書は、ほぼすべてが「ブルノ・ラトゥール」表記だった。訳者は「本人がブリュノと発声してるんだからブリュノです」の一点張りである。ネット検索にかかると、書店が混乱しないか、Wikipediaもブルノ表記なの。

いまとなつては当時のやり取りが懐かしく思い出されるが、京都賞の公式発表に大書された「ブリュノ・ラトゥール」の文字を見て、三年越しにほっと胸をなでおろしたのは言うまでもない。

## デジタル時代の教材設計を考える

島田英昭 (信州大学学術研究院教育学系 教授)

「動画はわかりやすい」は本当か？

デジタル教材が徐々に増加し、さまざまな議論がされている。よくある典型的な議論は、「動画で表現するとわかりやすい」という話である。これは本当だろうか？ 確かに、たとえば数学における図形の動きや、運動における体の動き等を伝えるには動画は優れている。しかし、私の専門分野である認知心理学、教育心理学に関連する研究から回答すれば、「わかりやすいこともあるが、思ったほどでもない」である。

たとえば、映像教材に字幕をつけると一見わかりやすそうに思えるし、字幕が理解の助けになることもある。一方で、人間の視覚が一度に追えるのは基本的に一箇所だけなので、映像と字幕を同時に見ることはできず、どちらの理解も中途半端になる可能性もある。また、動画は情報が多

くなりがちで、頭の中の処理が追いつかないこともある。人間が一度に処理できる情報量には限界があることが知られている（専門的にはワーキングメモリの容量限界と呼ばれる）。動画で表現の幅が広がるのは確かであるが、それが学習にとって望ましいかと言えば、そうとは限らない。

また、紙の書籍と電子書籍のどちらが読みやすいのか、という話もしばしば議論になる。このテーマも認知心理学、教育心理学の中でさまざまな研究が行われている。現代の人間は紙の本を使ってきた歴史があるから、「慣れ」の問題を排除して研究することが困難なので、現時点で明確な結論を下すことは難しい。ただ、現段階の私の印象では比較的「紙派」の方が優勢なのではないかと思う。

私は比較的デジタル推進派ではあるのだが、こうした事実を否定するつもりはない。しかし、近い未来、目安としては二〇年程度先を考えると、私は多くの教材がデジタル

化されると考えている。単純にデジタルに慣れ、画面の解像度が上がり読みやすさが向上するといった理由ももちろんあるのだが、最大の理由としては、そもそもの学習のしかたが大幅に変化し、教材の使われ方が変わるからである。

私は教員養成系学部で教育心理学の講義を担当しながら、認知心理学、教育心理学を専門として、教材を主な対象として研究を行っている。また、約一〇年前に日本デジタル教科書学会の立ち上げに参加し、学校現場の教員と連携しながら教育のデジタル化を見てきた。本稿では、筆者の専門分野と体験から、大学教育を主な対象として想定してデジタル時代の学習の変化を論じ、未来の教材に求められる仕様を大胆に予測してみようと思う。

## 学習の個別化

大学の授業形態で典型的なのは、大教室で大人数が一斉に学ぶ「一斉講義」と、教員と学習者の議論や学習者同士の交流に多くの時間を割く、いわゆる「ゼミ」や「演習」である。私は、この中で一斉講義が減り、徐々に学習が個別化していくと予想している。学習の個別化の背景には以下の二つの多様化がある。

一つは、育成が期待される人材像の多様化である。高度経済成長を典型とした工業社会では、一定のスキルが保障された人材が大量に必要とされた。ここでは、一斉に必要な内容を教授する形態が効率的である。

しかし、現代では他者と同じ知識やスキルを持つよりも、他者と異なる知識やスキルを持つている方が有利な時代になってきた。同じスキルを持った人材が集まって、一斉に同じ作業をして、同じモノを大量に作るという仕事が減った。すでに数十年前からこのような仕事は他国に移っているし、日本に戻るとしても、そこで働くのは人間ではなく機械である。異なるスキルを持った人材が集まって、専門性の高いスキルを組み合わせて、付加価値が高いモノやサービスを作り出すという仕事が増加した。

学習の個別化の背景にあるもう一つの要因は、学習者の多様化である。たとえば、家庭環境が多様化して、家庭が教育熱心で本に囲まれた家庭もあれば、教育に対して無関心な家庭もある。また、国際化時代では、学習者が使う言語や文化的背景が異なる。このような多様な学習者を相手にすると、一斉講義で十分な学習効果を上げるとは困難である。

実は、程度の差はあるが、学習者の多様化への対応ニーズはこれまでも存在した。たとえば、一斉講義において、ある学力を想定して「集団の真ん中に合わせる」や「学力上位に合わせてあとは個別の努力を求める」、あるいは見捨てるのは申し訳ないので「学力最下位に合わせる」といった方法が現実に採られるのではないだろうか。結果的に授業レベルに合わない受講生が生じる。ただ、それも仕方ない側面はあり、一斉講義をやめて個別対応するには教え



る人間の数が足りない。増やすには人件費が必要になるが、それを捻出する余力はない。結果的に個別の学力差は半ば無視され、一斉講義が継続されてきた。

では、なぜ今、学習の個別化を論じているのか。それは、一人一台端末と高速インターネットの普及という、学習にとって革命的とも言える時代変化が起きたからである。

### 学習の個別化を支えるテクノロジー

一人一台端末と高速インターネットが日本に十分に普及したと言えるのは、最近ではないだろうか。大学生がスマートフォンを所持するようになった一〇年ほど前が一つの起点だと思う。私が現在の大学に赴任した一五年ほど前、学生の一人一台端末が常識ではなく、友人にPCを借りてレポートを書いていた学生が印象に残っている（その友人のPCもノート型ではなく家に常置のデスクトップ型であった）。現代では、通信料金をそれほど気にせずに、動画の閲覧がいつでもどこでもできるようになった。授業に自身

のノートPCを持参する学生も増えた。ここ一年半の新型コロナウイルス感染症対応によりオンライン授業やテレワークが普及して、高速インターネットの常時接続はもはや常識化した。まだまだ地域格差や経済格差もあり発展途上にあるが、この流れが後戻りすることはないだろう。

私は、一人一台端末と高速インターネットは学習に革命的な変化を起こしたと考えている。そして、これが学習の個別化を促す非常に大きな要因になっていると考えている。その理由は、次の二つから論じることができる。

一つは、学習は情報の流通を基本としているからである。たとえば参考書を見るとしても、二〇年前は書店で一冊を選んで購入し、それ以外の情報は見たくとも見られなかった。現代では、インターネット上に大量の情報がある。簡単に検索できて、無料で見ることができて、さまざまな情報を見比べることができ、講義だって、自分の前提知識に合わせたレベルの動画を探して見ればよい。個々のニーズにあった情報を見つけやすいから、必然的に学習が個別

世界を覆う「戦争の文化」の本質とは何か

## 戦争の文化 (上)(下)

―パールハーバー・ヒロシマ・9・11・イラク―  
ジョン・W・ダウー 真珠湾攻撃から原爆投下、九・一一事件、イラク戦争まで、日本の愚行  
田代愛子、藤本博 を通じてその本質を描き出す。  
三浦俊章訳  
(全三冊) 四六判・定価各3,080円

現代史の第一級史料、ついに公開!  
(内容案内進呈)

## 昭和天皇拝謁記

―初代宮内庁長官田島道治の記録 全7巻―

田島道治  
[同] 田島隆久・茶谷誠一  
[編集] 永望・柴田源  
[編者] 河野秀哉・船橋真  
[協力] NHK

### 第1回 拝謁記 1

昭和二四年二月―  
二五年九月

総説・古川隆久  
解説・茶谷誠一

冷戦激化がもたらす大きな情勢の変化に、象徴天皇となった昭和天皇と田島道治はいかに対応したか。A5判・定価3,000円



岩波書店  
東京・千代田・一ツ橋

<http://www.iwanami.co.jp/>

化される。

もう一つ、一人一台端末と高速インターネットにより学習の個別化が促される理由は、教える人間の増加を求めない、すなわち経費の増加を求めないからである。二〇年前に個々の学生に合う教え方をしようと思えば、教員が時間を使い尽くすか、教員の数を増やすか、どちらかだろうか。しかし、現代では学習者が無料で自分に合った情報を手に入れることができる可能性が高い。もちろん一定の質を保つために有料の情報もあるが、情報の流通経路が紙から電子に変化しているから、流通コストは少なくとも低下している。

ここまでの議論をまとめると、一人一台端末と高速インターネットが二〇一〇年程度で普及したことが、学習の個別化を現実にしたという事実がある。そして、学習に使われる教材は、一人一台端末と高速インターネット、および学習の個別化を前提に変化していくのではないかと予想している。

### 個別化時代の教材

学習の個別化が進む中、教材はどのように変化していくのか。二〇年程度先を一応の目安にして、未来の教材について私の曖昧な予想も含めて大胆に考えてみたい。今回は、デジタル化、モジュール化、コミュニケーション支援の三つの観点を提案する。

#### (1) デジタル化

教材は紙からデジタルに移行されると見込んでいる。その理由は三つある。

第一に検索性である。ここまでに述べたように、学習の個別化が現実になった理由は、自分にあった教材をインターネット上から見つけることができるようになったからである。この中では、教材は学習者に「見つけてもらう」必要がある。どんなによい教材でも、見つけてもらえなければ役立たないし、商業的な成功もない。デジタル化されたデータは検索性が高く、見つけてもらいやすい。

第二に流通コストである。紙は輸送コストも保管コストも必要になる。新聞が徐々にデジタルに移行していることが典型であるが、情報を紙に載せて運ぶということは、商業的に成立しなくなる。デジタル情報は紙に比べて流通コストが圧倒的に低い。議論の流れから外れるが、世界的な環境保全の動きも一つの要因となるだろう。

なお、最初に議論したように、紙の方が読みやすいといった指摘はあるし、紙を好む学習者も残るだろう。ただ、その場合には個人が必要に応じて印刷すれば済むので、結局は、少なくとも流通部分はデジタルに移行するのではないかと思う。プリンターの高性能化・低価格化もそれを後押しする。

第三にマルチメディアの有効性である。直近では映像と音声、さらに先では3D装置等が一般に普及する可能性も

対立軸で読みとくわかる。東国史

# 対決の東国史

全7巻 12月刊行開始

第1回配本2冊 各2200円

## ②北条氏と三浦氏

高橋秀樹著 歴史を動かしたのはどちらか。対立イメージの真相!

## ③足利氏と新田氏

田中大喜著 圧倒的な力の差がありながらなぜ対決に至ったのか。

※以下続刊 「内容案内」送呈

## 日本史人物

### 〈あの時、何歳?〉

事典 0歳から85歳まで、1,200人の事跡

吉川弘文館編集部編 2200円

飛鳥時代から昭和時代まで、歴史上活躍した1200人の人生ガイド。

## 摂関政治から

### 院政へ (京都の中世史①)

美川 圭・佐古愛己・辻 浩和著  
都市域が拡大し、平安京が「京都」へと変貌する胎動期。2970円

## たたかう神仏の

### 図像学

勝軍地蔵と中世社会  
黒田 智著 お地蔵さま、軍神(いづながみ)になる。800年の時空を超えた図像と信仰。4180円

## 裁かれた絵師たち

近世初期京都画壇の裏事情  
五十嵐公一著 遺産相続・詐欺・借金返済。裁判を検証し、法理念や刑罰の実態に迫る。2640円

## 帝国主義国の

### 軍隊と性

売春規制と軍用性的施設  
林 博史著 世界の視点で国家と戦時の性を考える。4180円

日記と歴史百科が1冊で便利!  
2022年版  
**歴史手帳** 1320円

## 吉川弘文館

〒113-0033 東京都文京区本郷7-2-8  
電話03-3813-9151 / 価格は税込

ある。本稿のはじめ、動画がわかりやすいとは限らないと述べたことと矛盾すると思われるかもしれない。平均的に確かにそうだが、個別化の中では学習者に教材選択の自由がある。マルチメディアを好む学習者もいれば、そうではない学習者もいる。平均的によい教材を提供するよりも、選択の幅を広げることが学習者のメリットになる。

(2) モジュール化

教材のモジュールとは、単体で存在でき、一回の学習にちょうどよい単位にまとめられた学習内容を指す。詳しくはグーグル等の検索で意味を調べてほしい(無料の「モジュール教材」がたくさん見つかると思う)。

現在の大学の教材の流通を考えると、一冊の教科書が一つの単位になっている。今後、この単位が現在よりも小さくなると予想している。たとえば、「教育心理学」として流通していた情報が「学習」「モチベーション」といった単位に、さらには「モチベーション」「内発的なモチベーション」

といった形で細分化される。この意味では、モジュール化というよりも細分化と言った方が適切かもしれない。そして、たとえば「学習」はAシリーズの教材で学び、「モチベーション」はBシリーズの教材で学ぶといったように、現在よりも細かい単位で教材が取捨選択されるようになるだろう。最初から教材が特定されるわけではなく、その都度適切な教材が検索等によって選択される。個別学習では学習者のニーズや疑問から学習が始まるからである。

もちろん、学問には体系があり、従来の教科書の単位が体系的な情報を与えているから、一貫した記述方法で書かれている一冊の教科書で学ぶべきという意見はあるだろう。そのような学習が無くなるとは考えていない。しかし、個別化の中では学習者に教材選択の自由がある。学習者は現在疑問に思っている内容から学習を始めるのであって、そこには体系は関与しにくい。もし体系を与えたいのであれば、「次は……を学ぶとよいでしょう」といったように、個々のモジュールに体系的な情報が埋め込まれることになるの

ではないかと考えている。あるいは、学習者がたまたま無料で利用した教材を気に入り、そのシリーズの教材を大きな単位で購入し（あるいはサブスクリプション契約し）、その教材の体系で学ぶといったことはあるかもしれない。

### (3) コミュニケーション支援

学習は個別化するが、同時に人間同士の協働も学習に必要である。協働の重要性についてはここでは論じないが、情報を頭に詰め込むだけではなく、異なる考えをぶつけ合い、知識を整理することは、学習対象の深い理解には不可欠である。これまでも協働的な活動は、大学ではゼミや演習という形で行われ、一斉講義を補完する形で学習に役立っている。ゼミや演習がこのような機能を果たすことは今後も続くと思うが、このような協働の機能が教材に埋め込まれる可能性を考えている。

たとえば、学校教育にプログラミングが導入されているが、多くの学習の場で使われているサービスマシンのように呼ばれるものがある。ビジュアルプログラミングの学習教材として紹介されることが多いが、もう一つの大きな特徴として、ユーザーが個別アカウントを作り、ユーザー同士が作品を発表し合い、評価し合う場が用意されている。まさに、教材がコミュニケーションの機能を提供していると言える。このように教材に埋め込むことに限らず、何らかのSNS上で交流の場を用意したり、ユーザー同士のリアルな協働の場をオンラインで用意するといった方法もあり得る。

## デジタル教材時代の人間の役割

ここまでの話は、先生がしていた仕事のデジタル化、とも捉えることができる。いわば「インターネットへの講義の外注」である。そう考えると、先生という職業が不要になるのではないかと不安になるかもしれない。一斉講義の時代では、先生の仕事はまさに「講義をすること」であった。しかし、情報がデジタル化され、モジュール化されると、「講義」はそれほど多く必要とされない。時間と場所の制約なしに、一つの講義を多くの学習者が見ればそれで済んでしまう。

しかし、私は先生の仕事は残り続けると考えている。ただし、仕事の内容は大きく異なる。

未来の先生の仕事は、講義をすることではなく、教材の利用をサポートすることにあると考えている。たとえば、学習者が現在の自分の学習レベルを適切に把握できなければ、適切な教材を検索することはできない。そこで先生が学習者のレベルを評価し、教材の選択をサポートする。あるいは、そもそも学習に気が向かないこともある。そんな中で、学習がいかに大切かを説くのも先生の仕事として残る。私は、「ティーチャーからファシリテーターへ」という用語をよく使う。一人一台端末と高速インターネットを前提にして、学習の個別化の中で学習者をサポートすることが人間の先生に求められる仕事として残り続けると思う。

# デジタル教科書が広げる学びの姿

森下耕治（光村図書出版株式会社 教育開発研究センター長）

光村図書出版（株）では、二〇〇五年に初めてデジタル教科書という商品を世に出した。当時は二〇〇〇年に政府が発表したミレニアムプロジェクトと呼ばれるIT戦略に記載されていた、小中学校の全ての普通教室にパソコン二台とプロジェクトを整備するという計画が実現する（であろう）年であった。実際は、一部の教室だけであったため思惑は外れたが、二〇一一年度に地デジ対応として、スクールニューデール政策が興り、予算化によって指導者用（教師が使う）デジタル教科書が普及した。現在では、GIGAスクール構想の一人一台端末の整備から、児童生徒が自分で使う学習者用デジタル教科書の活用研究を進めている。世界中で進行している教育方法の変換点において、デジタル教科書が、どう学びを変えるのか、教育界にどのような影響を及ぼすのか、現状の活用実態から考えてみる。

## オンライン学習の側面から

二〇二〇年三月二日より一斉臨時休業となった小中学校及び設置者である教育委員会から、多くの問い合わせをいただいた。その中で、デジタル教科書の必要性を強く感じた二つの問い合わせがあった。一つはオンラインで授業を配信する際に、デジタル教科書を提示しながら授業を行うことの許諾についてである。紙の教科書より拡大投影したデジタル教科書の方が、教科書の内容を伝えやすいからである。もう一つは、海外の日本人学校の先生からの問い合わせで、ロックダウンで学校にある教科書を使えないので、デジタル教科書を使って自宅からオンラインで授業を行いたいという要望であった。どちらの授業も紙の教科書では実現しづらい活動で、コロナ禍で進んだDXと同様に、在宅勤務下で紙の資料を手でカメラに向けて示すより、電子

化されたシートを使う方が伝わりやすいということである。GIGAスクール構想によるICT環境の整備が進んだ学校現場で、デジタル教科書の教材としての位置付けは明らかに高くなっている。但し、これは教師が使う指導者用デジタル教科書のことで、児童生徒が使う学習者用デジタル教科書ではない。その要因として、学習者用デジタル教科書に関する情報が少ないことが大きい。弊社としても、活用検証を行い地道な広報活動を行っているが、一人一台の端末が普及した状態でも、学習者用デジタル教科書を整備した自治体は少ない。今年度、文部科学省事業によって全国の四〇%ほどの学校に配布されたことで、少しはそのポテンシャルを理解してほしいと願っている。

### 児童生徒の多様化の側面から

学習者用デジタル教科書の定義として文科省「学習者用デジタル教科書の効果的な活用の在り方等に関するガイドライン」（令和三年三月改訂）は以下のように説明している。

○平成三〇年の学校教育法等の一部改正等により制度化された学習者用デジタル教科書は、紙の教科書と同一の内容がデジタル化された教材であり、教科書発行者が作成するものである。このため、動画・音声やアニメーション等のコンテンツは、学習者用デジタル教科書に該当せず、これまでの学習者用デジタル教材と同様に、学校教育法第34条第4項に規定する教材（補助教材）であるが、学習者用デジ

タル教科書とその他の学習者用デジタル教材を組み合わせ活用し、児童生徒の学習の充実を図ることも想定される。

○近年、大型提示装置において主に教師が補助教材として提示して使用する指導者用デジタル教科書（教材）の普及が進んでいるが、学習者用デジタル教科書は、指導者用デジタル教科書（教材）とは異なり、学習者用コンピュータにおいて児童生徒一人一人が使用するものである。

○また、教科用特定図書等である音声教材やPDF版拡大図書については、学習者用デジタル教科書に該当しないが、特別な配慮を必要とする児童生徒等の様々な学習ニーズを満たすため無償提供されており、年々その需要が高まっている。

これらの説明により、学習者用デジタル教科書は朗読やネイティブスピーカーの音声もなく、紙の教科書をPDFデータ化したようなものと理解している方が多い。しかし、現状発売されている学習者用デジタル教科書は、さらに踏み込んで、地色の反転機能や機械音声での読み上げ機能などを搭載している。教育の本来の意味を考えると、現在教材としてみなされる動画・音声などの教材は、教科書としての範疇に入れるべきではないかという議論があり、文部科学省「デジタル教科書の今後の在り方等に関する検討会議」の中でも課題の一つとして議論されている。特に英語や国語の音声については、機械音声の再生ではなく、ネイティブスピーカーや朗読者の音声教材としての価値が高く、教科書の範囲としての位置付けを求める意見がこの

# 知泉書館

## 疫病・終末・再生

中近世キリスト教世界に学ぶ

甚野尚志編 疫病が地域や社会、時代に与えた影響という歴史学が看過した事象を実証的に解明 菊/364p/6000円

## オット一朝年代記

メールゼブルクのティートマル/三佐川亮宏訳注 10世紀ヨーロッパ四大叙述史料の一つを訳出、西洋中世史研究の基礎 A5/840p/12000円

## 中世哲学講義 第三巻

昭和50年—52年度

山田晶著、小浜善信編 京都大学での18年に及ぶ中世哲学講義を収録した貴重な記録。全五巻 A5/304p/3500円

## ヘーゲル全集 第10巻2

『論理学』客観的論理学：本質論 (1813)

責任編集 久保陽一 質や量の多様に変化する「存在」の領域から、「本質」の領域へ思索が展開 菊/360p/5400円

## フッサールの時間論

山口一郎 時間意識に関する前期から後期のテキストの読解を通してフッサールの時間論を解明 A5/416p/6300円

## 中国演劇史論

田仲一成 原宗教儀礼を源泉に誕生した中国演劇を古代から近代まで明快に論述した画期的通史 菊/440p/5400円

東京都文京区本郷 1-13-2 (税別)  
TEL03-3814-6161 FAX03-3814-6166  
<http://chisen.co.jp>

会議でも上がっている。現状では、デジタル教科書に付属している教材として、ネイティブスピーカーや朗読者の音声が入っている。この音声の問題は、上記のガイドラインの三つ目の○に、「音声教材」の需要が高まっていると示されている。視覚支援が必要な児童生徒にとっては、教科書本文の音声が再生されることが支援になる。紙媒体では実現できない「音声教材」の必要性は、誰もが認め、この制作に教科書会社も協力してきた。これらの音声教材の多くは、ボランティアによる制作で支えられている。現状の学習者用デジタル教科書は無償化の対象では無いため、広く普及するには課題もあるが、全ての児童生徒に届けられることが叶えば、教科書をデジタル化する意味の一つになると考える。しかも、視覚に支援が必要な児童生徒の聞き取る能力は高いので、再生速度が早い音声を求める傾向があると聞く。弊社のデジタル教科書(国語)では、再生速度を早くする機能を七段階持たせた。遅くする機能は五段階なので、早い方の選択肢が多くなっている。これは、広

島大学の氏間和仁先生のご指導により設けた機能で、以前には早いスピードの再生が必要であることすら、我々は認識していなかった。

### 主体的な学習、個別最適化の側面から

もう一つの側面として、学習指導要領の示す、主体的対話的で深い学びという学習方法への対応と、個別に最適化された学びを成立させる、新たな教材としての役割を述べてみる。以前の小中学校および高等教育の中では講義形式の授業が多く、工業化社会の時代には効率的に知識技能を定着させる方法として、海外からも高い評価を得ていた。一九九八年の学習指導要領の改訂により、総合的学習の時間が入るようになり、学習者が自分の意思で課題設定し、主体的に課題解決するスタイルの授業が行われるようになった。現状の大学の授業を経験することがないので、高等教育の分野で、どのような授業が多いのかという情報は持っていないが、小中学校の現場では、徐々に、授業形態や

評価方法の変化が見えてきており、そのことによる成果も現れていることが、全国学力・学習状況調査から見て取れる。令和三年度の同調査の結果によると、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」というアンケート項目に対し、八〇%前後の児童生徒が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えている。

<https://www.nier.go.jp/21chousakkekahoukoku/21summay.pdf>  
このような授業形態の変化に対応する教材として、デジタル教科書が果たす役割を、学校現場の先生方(実践者)とともに検討してきた。まず、教科書の特性として、国語科や英語科の教科書は、その内容を学ぶ教科である。言い換えれば教科書の本文を使う学習が中心となる教科である。そのため、授業でも教科書を読む(音読することも含む)ことに多くの時間を割いている。そして、一斉指導と呼ばれる授業では、読解活動を教師の発問と児童生徒の発言のやりとりで進められることが多く、クラスによっては、一部の児童生徒とのやりとりによって授業が進むこともあった。弊社で国語科学習者用デジタル教科書を活用した授業を検討した結果、教師の発問は、「教科書上への書き込みやマイ黒板(本文抜き出し機能)で要約をしよう」というような活動指示となる。この活動指示は、教師が発問を繰り返すことに比べ、大きな単位の学習活動になる。例えば、説明文を読解する際に、「筆者の意見とそれを支える研究内容を整理する」という課題の場合、一斉指導の授業では、

最初から段落ごとに「筆者の意見はどこにありますか?」と問いかけ、一つずつ答えることで、答えた内容(筆者の意見の文)が板書に記録されていく形態になる。この課題をデジタル教科書で行うと、「筆者の考えの文章だけを抜き出してください」という活動指示に、児童生徒はデジタル教科書のマイ黒板機能を使って抜き出していく。一部の指名された児童生徒ではなく、自分で考えながら同じ活動を全員が行うため、活動時間は一斉指導に比べてかかるようになる。一方でこれは、一つの課題に全員が発言することと同様の活動を行なったことになり、個々の学びが保証されている活動である。もちろん、抜き出せない児童生徒も出てくるが、活動の途中で、ペアやグループでお互いのデジタル教科書を見せ合い加筆修正を行うと、全員で一定の読解活動を進めることができる。このような授業をビデオ撮影によって分析していると、多くの児童生徒は教科書の本文を何度も読み返していることが見えてきた。しかも、書き込みや抜き出した本文を何度も修正する姿が多くあった。小学生にデジタル教科書の評価アンケートを行なってみたところ、書き込みを消す「消しゴム」機能の評価が最も高くなった。タップして一瞬で消えることの効果は、思考を止めないところにあるのではないかと予想している。さらにこのような授業で見えることとして、デジタル教科書に書き込んだり抜き出したりした画面を、お互いに見せ合うことがある。もちろん教師の指示によって見せ合いな



がら対話を行うこともあるが、教科書という同じ画面の上  
に個々の考えが載せられるため、違いを瞬時に捉えること  
ができるからと考えている。学習の目的によって異なるが、  
一つの答えがあるような活動（例えば本文の中で事実と意見  
を色分けして線を引く）を行なった場合に、最初の段落を  
終えた時点でペアで確認し合えば、勘違いしている児童生  
徒が、すぐに対応して課題に向かうことができるようにな  
る。また、それぞれの考えが異なるような学習活動（例え  
ば登場人物の心情の変化に影響を与えた行動や言動はどれか）  
を行なった場合に、違ったところの書き込みや抜き出した  
文章を見て、お互いに根拠を尋ね合う活動が生まれる。こ  
の学習活動こそ、対話的な学びであり、尋ねられた者は、  
自分の考えの根拠になる本文をもとに述べなければならな  
いため、読解活動を深めることが可能になる。また、友達  
の考えを受け止める活動も、自身の考えを見直す視点をも  
らえるため、お互いのデジタル教科書画面を見たいという  
意欲は、授業を進めるにつれて高まるという。授業実践の  
情報は次のサイトにインタビューとして掲載しているので  
参考にしてほしい。

<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/oshrase/interview/01.html>

## デジタル教科書の存在意義

今後の期待されていることを挙げると以下のようなこと  
がある。

・さまざまな教材（ドリル、資料、新聞など）との連携  
・学んだ記録や成果物の活用

前項までに述べてきたように、デジタル教科書には書き  
込みなど、学習活動の成果物を残すことができる。また、  
音声や動画を視聴した回数や時間を操作ログとして残すこ  
ともできる。このような学習成果物を可視化して示すこと  
が、いわゆる「データ駆動型教育」の一つである。一人一  
人に最適化した教材や学び方を提供するためには、児童生  
徒が学んだ学習成果物を分析し、つまりきや改善ポイント  
を研究することが必要だ。教科書の編集においては、これ  
までも長い時間をかけて授業実践から児童生徒の反応や学  
びの過程を検討し参考に行っている。ただ、この作業は企業  
ごとに行われ、表に出ない情報として各社が教科書の特性  
を出すために使われてきた。DXの目的は、分散していた  
情報を統合的に整理をして、エビデンスを用いた方針を立  
てることにある。今後は、その教材を活用した学習活動の  
記録（活動にかかった時間や活動した結果の成果物など）が  
可視化され、教師や児童生徒に直接還元され、場合によつ  
ては教材開発にも生かされるようになる。このようなデー  
タ活用には個人情報保護などの課題は残っているものの、  
教材開発にエビデンスが生かされる時代になってほしい。  
本稿の読者には、広く関心を持っていただき、教育分野に  
おけるDXの支援をお願いしたい。

# 大学生協が目指す電子コンテンツの世界

岡田憲明 (全国大学生生活協同組合連合会)

## 大学生協における電子コンテンツの配信の始まり

大学生協では、二〇一三年に「電子出版時代の事業計画の具体化」を策定しました。この計画はのちにDigital Education Contents Supportの頭文字をとってDECS計画と呼ばれることになりました。

このDECS計画は、「電子化された教科書・教材が端末で読めるようにするだけでなく、大学教育のイノベーションに貢献でき、学生の主体的な学びを支えるもの」を指すという理念のもとに策定されました。その後、大学生協内において議論を重ね、二〇一五年にシャープ株式会社とプラットフォームを共同開発し、自前のプラットフォームと閲覧ビューアを保持しながら事業の拡大を目指してきました。

そこには、この事業の目指す姿の中に「大学教育への貢献と学生の学びへの貢献」といった大学生協設立以来の高

い理想が語られており、そしてその事を実現したいという思いがありました。

## 進まない事業と見えてきた方向

スタートしたDECS計画がようやく、事業としての姿を見せ始めたのは二〇一六年からです。プラットフォームの起動とビューア機能の安定化、そして出版社によるコンテンツ提供が開始され、先進的な先生方によるテスト的な授業での導入が開始されます。しかし、これらのテスト的導入はまだ萌芽的なものであり、大きな広がりを持つものではありませんでした。それは、時代の先を見据えた積極的な提案であったのですが、いくつかの点において「甘い見通し」があった事によるものです。

いくつかの点とは、大学での本格的なデジタルの活用がすぐにでも始まるといった見通しを持ってしまったこと。

出版社の「紙から電子」への移行がすぐにでも進むような視点をもち、生協単独で出版社のデジタル化への道を切り開くことが出来るという思い込みがあったこと。また、学生のデジタルに関する「取り込み」は急速に浸透しているものの、それを活用した学修スタイルという事では、大きなマス(市場)になっていないという認識の甘さ。そして多様な大学事情がある中で、すべての大学で教育ICT分野の取り組みが一齐に生まれるという間違った見通しを持ったことです。大学生協は、DECIS計画に対する大きな見直しを迫られることになりました。

このような中で、一筋の明かりとなったのが医学辞書と一部の医学書籍の電子コンテンツをセット化した六年間の期限付きで販売した、電子コンテンツ「医書セット」です。すでに紙以外のさまざまなコンテンツを活用し学修する経験のある医学生から、支持を得ることができました。この経験は、大学の授業が電子コンテンツ配信で講義されていく中で広がりを持つという視点だけではなく、「学生の主体的

な学びにおける電子コンテンツの活用」という視点で浸透していくという見通しを持つ事になりました。

この経験は、この後の大学生協の電子コンテンツ配信事業(DECIS)に大きな道筋をつけることとなります。道筋とは、医学看護などの学び、特に国家試験を当面の目標とする学生たちの学びにおいて、電子コンテンツは有効であるという見通しを立てることができたことです。この見通しは、その後の看護系学部での電子コンテンツを使った授業の始まりによりさらに確信となりました。そして「学生の主体的な学び」にコミットした商品開発を先行して行うことが事業的にも近道であるという方向を持つ事になりました。

このような経験のもと、大学生協では、電子コンテンツ配信における事業領域を以下の四つに設定し、それぞれの領域における取組を視野に入れ、優先順位として「B領域」から進め、次に「A領域」、そして「D領域」から「C領域」への事業拡大を計画することにしました。

## SS将校のアームチェア

リー 古いアームチェアの中に隠されていたナチの書類。そこからひとりのSS将校の人生が浮上する。庭田よう子訳 ¥4400

## がんは裏切る細胞である

進化生物学から治療戦略へ

アクティビス がん細胞の《裏切り》の進化戦略を知り、がんを《手なずける》。目から鱗の生物学。梶山あゆみ訳 ¥3520

## 自由の国と感染症

法制度が映すアメリカのイデオロギー  
トレスケン アメリカの法制度と感染症対策の関係を天然痘・腸チフス・黄熱病の歴史から分析。西村公男・青野浩訳 ¥4620

## アジアの多重戦争

1911-1949  
日本・中国・ロシア

ペイン 国共内戦、日中戦争、第二次大戦を一塊の戦争と捉え、4か国の史料を駆使して新たな歴史像を提示。江戸伸禎訳 ¥5940

## 学校史に見る日本

足利学校・寺子屋・私塾から現代まで  
五味文彦 古代以来、中世、近世の豊かな展開、やがて改革、文明と経済、環境の時代から今日へと。類のない通史。¥3520

## ホロコーストとヒロシマ

ポーランドと日本における  
第二次世界大戦の記憶

ナチ占領下ポーランド人のユダヤ人への対応、アウシュヴィッツと広島、日本のホロコースト受容史等10編。加藤有子編 ¥4950

## 映像が動き出すとき

写真・映画・アニメーションの  
アルケオロジー

ガニング《動く》とは、「アトラクションの映画」で著名な泰斗の鮮やかな視覚文化論。日本語版独自編集。長谷正人編訳 ¥7920

東京文京本郷  
2丁目20-7  
tel.3814-0131 fax.3818-6435(税込)  
www.msiz.co.jp

## 事業領域設定図

<p><b>A 領域</b></p> <p>教育への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書採用</li> <li>・講義利用</li> </ul>	<p><b>B 領域</b></p> <p>学生の学びへの貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医書セット</li> <li>・語学系辞書コンテンツ</li> </ul>
<p><b>C 領域</b></p> <p>楽しみ・自己実現への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文庫本などの読み放題セット</li> <li>・読書推進活動 (リーディングスキル講座)</li> </ul>	<p><b>D 領域</b></p> <p>自己成長・キャリアアップへの貢献(大学生協オリジナル講座テキストの電子配信)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語講座テキスト</li> <li>・PC 講座テキスト</li> <li>・公務員講座テキスト</li> </ul>

### 「学生の主体的な学び」への貢献

「B 領域」である「学生の学び」に軸足を置いてきた事で、先進的なデジタルを活用した学びの姿が見えてきました。特に医学看護領域においては、画像・動画による学修が欠かせないことから、デジタルの学びは威力を発揮しています。また、二〇一九年から本格展開した「語学系辞書(電子)コンテンツ」は、利用する学生が徐々に増えています。

このコンテンツを活用している学生では、一つのデバイスの中に辞書機能と他の電子コンテンツを一つのデバイスに取り込み、巧みなノートテイキングを行っている事例などが見受けられます。このような学びは、「いつでも、どこでも、誰とでも」という学びに進化しており、時間と場所にこだわらない様々な学びへと発展しています。

そして、大学生協はこれまで取り組んできた、学生さんへの「パソコン講座」活動などの「学びと成長事業」。個々の大学の実情に合わせた、必要な機能を備えた教材PCの提案活動、そして学内にある店舗を活用したサポート活動などと連携したデジタルコンテンツを提案する取り組みを進めていく事にしています。この姿は、私たち大学生協の総合力として一体的に推し進めることで広がりを持つものであり、このような学び支援活動を「学びの総合提案」という表現で、取り組んでいる大学生協も増えています。

### 「大学教育のイノベーション」への貢献

「A 領域」においても見えてきたことがあります。デジタルを活用した授業を行うには、その導入時点において、さまざまなサポートが先生方にも学生さんにも必要です。大学生協からの電子コンテンツ配信で授業を開始された先生方や学生さんには、大なり小なり生協職員のサポートが見受けられます。このような生協職員の姿は、多くの方からの信頼を勝ち取り生協の価値を高めることにつながっています。

生協は学内にある日常的な組織です。すぐそばに居る生協職員は、先生方や学生さんにとっては身近な存在です。このような存在である大学生協は学内のハブ的な役割を担う事が出来ます。このハブ的な役割は、先生間だけでなく、授業支援として互い（教員×教員・学生×学生・教員×学生）のニーズについての意思疎通を高める事にも役立ちます。まだまだ実力不足ですが、目指す姿はしつかりとあります。

### 大学生協が実現したい電子コンテンツ活用の姿

これまでの蓄積をさらに発展させ、大学生協では以下のような「なりたい姿（教育への貢献・学生の学びへの貢献）」を創造しています。

この姿は、電子コンテンツの特性を活用し、新しい教育と学びの姿を構築するものです。これまでの「習う学習」から、「修める学修」へという主体的な学びを創り出すものであり、教育においても「学修ログ」の活用といった「データに裏付けられた教育の姿」でもあります。

このような総合的な事業展開を、大学生協では「学修教育支援事業」という考え方にまとめました。以下は、この事業の概念です。

◆大学にとって最も大切な学修教育をサポートすることで、学生組合員・教職員・大学に貢献する。

これまでの書籍や情報機器の提供だけではなく、教育現場で求められるようになって来たアクティブラーニングなどの「新たな大学教育」に応える教材の提供とサポートを充実させます。その一つとして大学における学修場面で必要な、ツール（デバイス）とコンテンツそしてスキル向上に寄り添うサポートを一体的に提案しながら、学生の勉学に貢献していきます。また、大学教育の変化を研究することで、新たな教育学修支援事業を組み立て、大学生協の強みを生かしたブランド力の高い事業を実現していきます。

この中で、「新たな大学教育に広がる教材の提供とサポ

## 新刊案内

### インドネシア

### 21世紀の経済と農業・農村

加納啓良 著

菊判・200頁 4,000円

21世紀に入り、発展途上国から中進国へと成長した世界4位の人口大国インドネシア。その経済構造の全体像と新しい成長産業の担い手、底辺でそれを支えてきた農業と農村の変貌を統計と実地調査の成果を駆使して描写する。

### 祭礼における権威創造の民俗誌

— 旦那衆・町鳶・若連 —

市東真一 著

A5判・200頁 6,000円

### 日本と中国の村落秩序の研究

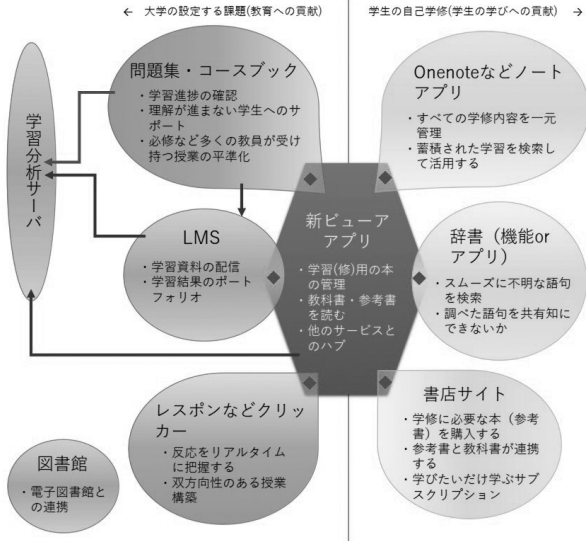
関 美芳 著

A5判・210頁 6,000円

### 御茶の水書房

〒113-0033 東京都文京区本郷5-30-20  
電話03-5684-0751

## ◆大学生協が目指したい電子コンテンツの世界



ートの充実」と記述していますが、この教材の提供という視点には、「コースウェア」があり、開発された「コースウェア」を有効に活用し、大学(教員・学生)をサポートする生協の姿が意識されています。

そして、「コースウェア」を、「いつでも、どこでも」使えるように、一定の金額を支払えば利用できるようなサブスクリプション方法での提供は、広がりを持つためには不

可欠な仕組みだと考えています。

### 最後に、目指したい姿の実現のために

大学生協では長引くコロナ感染により、オンライン環境は大きく変化し活用のスピードは速まるとみています。このような時において、大学で使用する電子コンテンツ配信のプラットフォームや閲覧ビューアなどについては、標準化されたものになり機能や使い勝手、そして配信コンテンツなども規格化されていく事が望ましいと考えています。

この思いもあって、八年間単独で進めてきたプラットフォームおよび閲覧ビューアについては、「自前主義」をやめて大日本印刷と丸善雄松堂との協業の道に方向を切り替えることにしました。このことで使用される電子コンテンツ配信とそのビューアについては統一したものになり、標準化されたものになっていく事を願っています。また、通信環境の安定化も電子コンテンツ配信には欠かせない環境です。このように、大学生協単独では実現が難しいさまざまな電子コンテンツを取り巻く課題を、関連する企業との協業により実現することを目指していく事にしました。

私も大学生協は、今回の協業において「大学生協の経験」を活かすことが出来ると信じています。二〇一三年に掲げた「大学教育のイノベーションに貢献でき、学生の主体的な学びを支える」というミッション実現に向かって、引き続き努力してまいります。

# インドにおける教育のデジタル化とオンライン学習の展開

小原優貴（日本学術振興会／お茶の水女子大学特別研究員（RPD））

世界的な新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大は、教育のデジタル化を押し進め、多くの教師、保護者、生徒がその価値を体験し理解する機会となった。教育におけるICTの活用が遅れてきた日本でも、新たな日常に対応するため、ICT環境が急ピッチで整備され、ICTを活用した授業実践の共有や学び合い、研修などが進められた。アジアの他の国ではどうであろうか。アメリカに次いで、世界で二番目に多いコロナ感染者数を記録したインドでは、ロックダウンが複数回にわたり延長され、学校閉鎖が長期化した。一方、インドは、テクノロジーを教育に活用するEdTech（Education Technology）を組み合わせた言葉）市場の成長を牽引してきた国でもあり、COVID-19拡大以前より、オンライン学習教材の開発と普及が進められてきた。インドの教育関係者は、未曾有の事態にどのように対処したのだろうか、学校現場はどのように新たな日常を

構築しようとしているのだろうか、アジアの新興国インドの状況から、コロナ禍後の教育の方途を探る。

## コロナ禍における教育のアクセス確保

インドでは二〇一五年より、知識経済社会への移行に向けて、様々な分野のデジタル化を推進するデジタル・インディア運動が進められてきた。教育においては、二〇一五年に学校教育のためのポータル、ePashala（Pashalaは学校の意）が構築され、動画教材やQRコードで読み取れるデジタル教科書などのオンライン教材が無償提供された。

また二〇一七年には、全国の教員が授業や研修のため教材を制作・共有できるプラットフォーム、Digital Infrastructure for Knowledge Sharing, DIKSHAが構築された。

インドでは国民の教育熱の高まりを背景に、教育機関が増加する一方で、深刻な教員不足と地域格差が課題となっ

ている。これらのオンラインプラットフォームは、地理的・経済的理由などで質の高い教育・研修を受けることが困難な層に、公平な機会を提供することをねらいとしている。

COVID-19の拡大は教材のオンライン化を加速化させ、これらのプラットフォームでアクセスできる教材の数は、コロナ禍前から二〇二一年の間で急増している。たとえば Pathshala<sup>7</sup>は、二〇一八年から二〇二一年の間で、デジタル教科書の数が一五二件から五〇四件に増加している。

二〇二〇年に政府が発表したオンライン学習に関する政策<sup>8</sup>、Pradhan Mantri eVIDYA（首相によるオンライン学習<sup>9</sup>の意）政策では、DIKSHAがコロナ禍のオンライン学習の主要なプラットフォームとして位置付けられ、教員のみならず、生徒も活用できるように、コンテンツのさらなる充実化が図られた。ただし、インドのICT環境は、地域、学校、家庭によって大きく異なり、これらの教材にアクセスする端末を持たない者や、その活用方法を十分に知らない者も少なくない。政府はこうした国内の事情に鑑みて、世帯普及率の高いTVに初等中等教育専用のチャンネルを、各学年に一チャンネル設けた。同時に生徒の心理的ケアを目的としたポータルや相談窓口も開設した。

教員もまたコロナ禍で学びを止めない努力をおこなっていた。生徒が自宅や屋外でソーシャル・ディスタンスを保ちながら学べるように、屋外スピーカーを活用したり、バイクに小型黒板をのせて移動教室を開いたりして、ローテ

クを用いた教育活動をおこなう教員の姿が各地でみられた。一方、ユニセフが二〇二〇年にインド六州でおこなった調査では、コロナ禍のリモート学習において最も利用されたツールは、WhatsAppという通話やメッセージ機能をもつアプリケーションであったことが明らかにされている（UNICEF India Country Office 2021）。インドでは、WhatsAppはスマートフォンなどにインストールされ、日常的に用いられているコミュニケーションツールである。インドのパソコンの世帯普及率は、都市部でも二三・四%にとどまり、農村部においてはわずか四・四%に過ぎない。これに対して、スマートフォンは、一部の低所得者層の間でも普及が進んでおり、コロナ禍において教員が生徒と教材を共有したり、宿題の提出や採点をおこなったりする上で欠かせないツールとなった。

WhatsAppに続いてリモート学習で多く用いられていたのは教科書で、ICTツールと併用して用いられた。オンライン学習とオフライン学習のツールの併用は、WhatsAppと教員による家庭訪問という形でもみられた。スマートフォンを覗き込んでオンライン授業を受ける低所得地域の子どもたちの姿は、コロナ禍以前は考えられなかったが、そうした光景が日常となったところもある。

一方、教育におけるICTの活用には学校間で差がある。デリー準州の教員を対象に調査をおこなったジェインらの研究（Jain et al 2021）によると、コロナ禍の教育において



# 藤原書店

## 地中海と人間

原始・古代から現代まで  
(全2分冊)

- 1 原始・古代から14世紀
- 2 14世紀から現代

D・アブラフィア ブローデル『地中海』以後の「地中海史」を塗り替えた最重要書、ついに完訳。地中海研究の世界的第一人者による「海における人間の歴史」の決定版! 高山博監訳 佐藤昇・藤崎衛・田瀬望訳 各4840円

## パリ日記 全5巻

特派員が見た現代史記録 1990-2021  
II シラクの時代 I 1995.5-2002.5

山口昌子 ユーゴ紛争終結、「ユーゴ」誕生、「9.11」事件勃発。5280円

## 哲学の条件

A・パティウ フランス現代思想“最後”の巨人パティウ哲学への導入にして、その全体像を提示。〈序〉F・ヴァール 藤本一勇訳 6820円

別冊「環」26 **高群逸枝** 1894-1964

女性史の開拓者のコスモロジー

芹沢俊介・服藤早苗・山下悦子 編  
女性史家であり詩人、高群逸枝の全体像を描く初の成果。3520円

## リパタリアンとは何か

江崎道朗・渡瀬裕哉・倉山満・宮脇淳子  
新型コロナ流行で“個人”が規制される今、真の“自立の思想”を提示する。2200円

## 絵本 竹内レッスン!

からだで考える

竹内敬晴=文 森洋子=画 からだとことばのワークショップを絵で。米沢唯(バレエダンサー)=跋 1980円

月刊 **機** B6変32頁 12月号 No.357  
COP26と宮脇昭メソッドの森 | 藤原一繪 / 藤本一勇 / 山口昌子 / 方波見康雄 / 宮脇淳子 / 仲程昌徳 / 鎌田慧 / 中西進 / 加藤晴久 ほか。  
年間購読料 2000円(送料込) ©見本誌・ブックガイド呈 \*表示価格税込  
〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町523  
振替 00160-4-17013 TEL 03-5272-0301  
ホームページ <http://www.fujiwara-shoten.co.jp/>

教員が取り組んだ活動として、私立学校では、録画した講義のYouTubeでの共有や、Google classroom等の授業用のオンラインプラットフォームの活用などといった授業のオンライン化をあげた教員の比率が高い(七八%、六九%)。これに対して、公立学校では、低所得家庭の生徒の通信環境の整備をあげた教員の比率が高い(七〇%)。公立学校では、学校がオンライン授業のための設備を有している、教材のオンライン化のサポートやオンライン授業のための研修を実施している、と回答した教員の比率が低く、こうした学校の支援体制のあり方が、教員のオンライン化対応に差を生み出していると考えられる。

政府や教員の積極的な取り組みにも関わらず、学校閉鎖によって、教育から離れてしまった者もいる。ユニセフが調査した六州では、学校が閉鎖されてから六か月にわたり教育をまったく受けられなかった生徒は、四〇%近くに及んだことが確認されている。ロックダウンによる学校閉鎖によってリモート教育がスタンダード化し、子どもたちの

学習の場の中心が家庭となる一方、低所得世帯では、保護者の教育経験が乏しく、子どもの学習を十分に支援できないことが少なくない。とりわけICTを活用したりリモート学習に至っては、アクセス手段自体をもたなかったり、馴染みがないため活用できなかったりと、様々な理由で、子どもの学習継続が困難に陥りやすい。オンライン学習は、集中の持続が難しく、学習意欲を低下させないための工夫が必要になる。しかし、多くの教員にとってオンライン授業は、はじめての経験であり、学校によってICT環境や教員研修の実施状況に差がある中、コロナ禍にアクセスできる教育の実態には、地域、学校、家庭によって差が生じている。

## テクノロジーを活用した学びの改革

テクノロジーを用いた革新的な教育の創出を目指すEdTech企業は、コロナ禍においてどのような役割を果たしたのだろうか。インドのEdTech企業は、コロナ禍以

前より、効果的なオンライン学習プラットフォームの構築に取り組んできた。これらの企業の多くは、コロナ禍において、自社のオンライン学習プラットフォームへのアクセスを無料化し、動画教材、リアルタイムの同時配信授業、ワークシート、試験準備資料などを無償で提供した。

EdTech企業として世界的にもトップを走るインドの新興企業、Byju's（バイジューズ）もそのひとつである。二〇二一年に設立されたByju'sは、初等中等教育段階の児童生徒や受験生を対象に、独自に開発した3D動画教材などのオンライン学習教材を、自社アプリケーションを通じて提供してきた。インドでは、学歴競争が激化する中、試験中心・知識中心の学校教育が、生徒に過度のプレッシャーを与えており、学習者中心の教育への転換が目指されてきた。しかし、資金や人材不足などにより十分な教員養成が実施できず、多くの学校では、知識伝達型の教育がおこなわれてきた。

こうした中、Byju'sは、「効果的に楽しく学ぶ」というキヤッチコピーのもと、視覚を活用した学習内容の理解・定着と、学習の個別化を重視し、学習者の興味をひく3D動画教材や、学習者の理解度に合わせて学習課題をカスタマイズする学習アプリケーションの開発を進めてきた。Byju'sの動画教材は、学習者の集中力が持続するように短く作られており、科目に関する知識はもちろん、プレゼンテーション力や説明力の高い講師が登用されるなど、工夫が凝ら

されている。また学習アプリケーションには、理解度確認クイズのほか、学習者がメンターに繋いで質問できるサポートサービスが付加され、学習の定着が図られている。保護者は、アプリに記録されたクイズ結果から、子どもの理解度を科目や課題ごとに確認できる仕組みだ。

Byju'sは、インドの多言語への対応や、教員不足に直面する地方へのサービス展開も進め、アプリ登録者数を約五七〇〇万人にまで増やしてきた（有料加入者は三五〇万人ほど）。学校閉鎖が長期化する中、Byju'sは、学習アプリへのアクセスの無料化や、リアルタイムの同時配信授業の提供を開始すると同時に、ICT端末を持たない低所得者層に自社アプリをインストールした中古端末を寄付し、コロナ禍における教育のアクセス確保に努めた。

二〇一五年に設立されたAvanti（アバンティ）もまたコロナ禍のインドの学びを支えるEdTech企業である。Avantiは、理系分野の大学進学を志す低所得家庭出身の生徒をおもな対象として、中等教育段階で実施される共通試験対策のための補習教育をおこなう学習塾である。インドでは、IT大国という国際的なイメージに反して、中等教育段階で数学と理科を教えられる教員が不足している。そのため、低所得家庭出身の生徒は、都市部の高所得家庭出身の生徒に比べて、質の高い理系教育を受けることが難しく、国内の優良大学への進学が不利な状況にある。Avantiは、こうした課題を解決するために、自社の学習プラットフォームを

通じて提供する動画教材と、効果的な教授法を活用して、質の高い補習教育を低価格で提供してきた。

Avantiでは、各講義の事前課題として、数学と理科に関する概念を視覚化した自社開発の動画教材を視聴させ、対面講義では、ハーバード大学の物理学者であるエリック・マズールが開発したピア・インストラクション（学習者同士の教え合い）という教授法を用いて、協同学習を中心に据えた学びを展開している。これは、対面授業を知識習得の場から知識応用の場に転換し、学習者の概念理解や定着を図る反転授業という教授法であり、オンラインでの個別学習と対面学習を組み合わせたブレンド型学習の形態のひとつでもある。

Avantiの特徴は、その運営形態にも見出される。Avantiは民間企業に加えてNPOも運営しており、前者は、学習塾として低価格の補習教育を私立学校の生徒を中心に提供し、後者は、前者から得た収益や国内外の財団からの助成金などを運営費にあて、低所得者層の生徒の通う公立学校を対象に、無償の教育サービスを提供している。NPOとしてのAvantiは、コロナ禍以前から、州政府と協力して、映像教材を活用した授業実践のための教員研修を公立学校で実施してきた。オンライン学習の需要が高まった学校閉鎖期間中、政府との連携は一層深まり、政府と協力して制作した動画教材をDIKSHAとYouTubeなどで公開している。

## コロナ禍後の学びの未来

インドでは技術の進展に応じた教育の実現のために、コロナ禍以前から、政府、民間、学校などのアクターそれぞれが教育のデジタル化に取り組んできた。COVID-19の爆発的な拡大によって学びの危機に直面したインドでは、教育のデジタル化が一層進むと同時に、コロナ禍の学びを支えるために、アクター間の連携が進められた。一方、コロナ禍にアクセスできる教育の実態には、地域、学校、家庭によって差がみられた。コロナ禍後の子どもたちの学びは、コロナ禍において従来の教育を見直し、技術革新がさらに進んだ未来に向けて、効果的な学びのあり方を模索できた教員と、そうでない教員との間で大きく異なる。コロナ禍後の子どもたちの学びを保証するためにも、教員への支援が一層求められよう。

### 参考文献

- Jain, S., Tall, M. and Singh, A., Teachers, Voices on the Impact of COVID-19 on School Education: Are Ed-Tech Companies Really the Panacea? *Contemporary Education Dialogue*, 18(1): 58–89, 2021
- UNICEF India Country Office, *Unicef Report on Rapid Assessment of Learning during School Closures in Context of COVID*, UNICEF, 2021

# 大学出版部ニュース

表示価格は税込です。

## 大学出版部協会・活動報告

- 一〇月一五日(金) 一五時〇〇分  
第五回 営業部会 開催(ZOOM)
- 一〇月二十九日(金) 一五時〇〇分  
臨時総会(新任理事選定) 開催
- 第五回 理事会 開催(ZOOM)
- 十一月一日(木) 一四時〇〇分  
編集部会秋季研修会 開催
- ケーススタディ 村上 文(慶應義塾大学出版会) / 『教科書出版ノススメ』
- 山田秀樹(東京大学出版会)
- 十一月一七日(水) 一五時〇〇分  
営業部会オンラインセミナー 開催
- 『創元社のビジネスモデルから学ぶ』  
講師：水口大介(創元社)
- 十一月一九日(金) 一四時〇〇分  
第六回 営業部会 開催(ZOOM)
- 十一月一九日(金) 一五時〇〇分  
大学出版部協会オンライン研修会『書籍の企画から販売まで何をなすべきか』  
講師：澤畑 罌(東京大学出版会)
- 十二月三日(金) 一二時三〇分  
第六回 理事会・年末総会
- 十二月一六日(木) 一四時〇〇分  
第四回 編集部会 開催(ZOOM)
- 十二月一七日(金) 一五時〇〇分  
第七回 営業部会 開催(ZOOM)

## 北海道大学出版会

- ▼平石直昭著『福澤諭吉と丸山眞男―近代日本の思想的原点』(A5判・四七六頁・八八〇〇円) 日本の文明化と独立を目指した福澤、福澤を原点に真の民主化と国民主義の革新を求めた丸山。近代日本思想史を統一的に捉える。
- ▼石神圭子著『ソール・アリンズキーとデモクラシーの挑戦―20世紀アメリカにおけるコミュニケーション組織化運動の政治史』(A5判・三二八頁・六六〇〇円) コミュニティ・オーガナイズングと呼ばれる活動を確立したアリンズキーの活動を辿り、その理論的・実践的意義を明らかにする。
- ▼橋本雄編『再 くりかえす世界』(四六判・三〇六頁・三〇八〇円) 北文学研究院の教員陣が、自らの研究分野で議論される「再―再生・再生産・再帰・回帰―にまつわる諸相を提示。
- ▼戸田聡著『古代キリスト教研究論集』(A5判・三二二頁・七七〇〇円) 新約聖書で最初にできたのは「マタイ福音書」である、Q資料仮説は不要である、など挑戦の書。「トマス福音書」新訳を収録。

## 弘前大学出版会

▼弘前大学教育学部編『弘大ブックレット14 人、人と育つ 弘前大学 教育学部特別活動授業録』(A5判・六五頁・五五〇円)教師の「生きた経験」に基づく視点から、集団で生きる意味を照らす自分を見つめる手助けになる書。

▼弘前大学農学生命科学部附属白神自然環境研究所編『白神学入門(2021)』(A4判・一〇四頁・一九八〇円)白神山地の人や動植物のくらし、自然環境を紹介。白神山地について幅広い知識を得たい方におすすめ。

▼長瀬智行・吉岡良雄・別宮耕一 共著『暗号技術を支える数学(第2版)』(B5判・二六一頁・二七五〇円)キャッシュレス時代に不可欠な情報保護や暗号の仕組みを分かりやすく解説。付録にはC言語プログラムをできるだけ多く掲載。

▼Radiation Environment and Medicine 編集委員会編『Radiation Environment and Medicine Vol.10 No.2』(A4変形判・六七頁・二二〇円)被ばく医療に関わる最新の知見や原著論文を掲載した英文学術誌。今号では、放射線生物影響、放射線計測等の9報の論文を掲載。

## 東北大学出版会

▼岡安儀之著『公論』の創生「国民」の誕生 福地源一郎と明治ジャーナリズム( A5判・二二〇頁・四四〇〇円)文明開化期の日本において福澤諭吉と並び称されながらも、これまで「御用記者」の代表格として等閑視されてきたジャーナリスト福地源一郎(桜痴)。福地が『東京日日新聞』の社長兼主筆として健筆を振るった明治七年からおよそ一〇年間の同紙論説記事や他紙を丹念に分析し、「公論」と「国民」の形成という角度から照射することで、明六社や自由民権運動を中心に構築されてきた明治前期思想研究の枠組みに新たな展望を切り拓く。

▼佐藤修彰、桐島陽、渡邊雅之著『ウランの化学(一) 基礎と応用』(A5判・一九〇頁・三三〇〇円)原子力利用の燃料として使われるウランの化学について、金属および各種化合物の製造、物理的・化学的性質などの基礎を丁寧に紹介。応用として原子燃料サイクルにおけるフロントおよびバックエンド化学プロセス、燃料デブリの性質と実用されている工業製品の性質を解説し、ウランの化学と原子力利用との関わりについて学ぶ。

## 流通経済大学出版会

▼杉山雅洋著『交通学の足跡―角本良平の交通学探索の旅路を辿る』(A5・二九八頁・三六三〇円)角本良平は超人的な研究活動を行い膨大で貴重な研究実績を残した。都市交通研究・通勤新幹線構想、道路公団改革、郵政改革等多岐にわたる主張を整理・紹介し、その偉大な足跡を紐解く。



▼尹敬勲著『第4次産業革命と社会教育』(A5・一八六頁・三三〇〇円)機械が人間の仕事を奪う第4次産業革命の時代、職を失う多くの労働者の生きる道、生き残るために必要な「変化を先取る」学びとは？



## 聖徳大学出版会

▼塩美佐枝・古川寿子・重安智子・井口厚子・関口明子著『教職実践演習―幼稚園教諭・保育士・保育教諭を目指すために』（B5判・一四〇頁・一七六〇円）  
幼児教育に携わるために学んできた総まとめとして、いじめ、食育、特別支援教育や、幼・小連携、家庭や地域との連携の大切さを具体例を挙げて説明。総合的な実践的指導力の基礎を修得できる一冊。  
▼宇佐美博子・河村久・神田由紀・黒須利夫・小林芳枝・長橋雅俊・松井孝夫・八木正一著『教職実践演習』（B5判・一四六頁・一七六〇円）  
中学校・高等学校教諭を目指す方に向け、教職課程の振り返りから生徒指導要録・通知表の記入の仕方まで解説。教職の魅力が満載。  
▼高橋裕樹著『新しい時代のキャリアデザイン―自分の人生を自ら描くために』（A4判・一六七頁・一七六〇円）  
全十五章構成で、記入式ワークシートを使いながら、キャリアデザインの基礎から応用まで段階的に理解を深める。「なぜ働くのか」を問いかけてつづ、一人ひとりが激動の時代を乗り切り、力強く生きるための人生の羅針盤となる書。

## 慶應義塾大学出版会

▼ライナー・ヴァール著／小山剛・石塚壮太郎監訳『ドイツ憲法の道程』（A5判・三五二頁・七七〇〇円）  
ドイツ憲法はどのような道筋で発展したか。何が今日の発展へと導いたのか。いかなる要素が現在を特徴づけるのか。憲法裁判権、基本権解釈、公法の発展の文脈に切り込む「憲法の優位」に続く至高の論文集。  
▼山内祐平（編著）『活躍する若手社員をどう育てるか―研究データからみる職場学習の未来』（A5判・二〇八頁・二六四〇円）  
株式会社マイナビと東京大学大学院情報学環山内祐平研究室の共同研究成果。若手社員が日々の仕事から学び成長し続けるために、上司、同僚、職場はどのようなサポートができるか。実態調査をもとに人材育成の方法を提案。  
▼C・ル・ボゼック著／藤原翔太訳『女性たちのフランス革命』（四六判・二二四頁・二六四〇円）  
「自由・平等・女愛」の社会を目指したフランス革命は女性たちにとって何を意味し、女性たちはどう関わったのか。農民、教師、経営者、芸術家……市井の女性たちのリアルを明らかにする。

## 専修大学出版局

▼専修大学今村法律研究室編『神兵隊事件 別巻十』（A5判・四〇〇頁・六一六〇円）  
昭和八年七月に起きたクーデター未遂事件の資料集の第十巻。「神兵隊事件予審訊問調書写」より、被告人五名の尋問調書を収録。  
▼八木晃二著『超ID社会―ビッグデータ、IoT、AIスコアリング時代にプライバシーと自分像をいかに守るか』（A5判・二一六頁・二四二〇円）  
なぜPayの不正ログインは発生したのか？なぜマイナンバーカードは普及しないのか？現代はひとりの人間が多量のIDを使用する高度情報化社会すなわち「ID社会」といえる。積極的な情報活用を目指しながら、どのようにプライバシーの保護を確立するべきか。効率性な情報連携はどのように実現するべきか。ID社会の課題を浮き彫りにし、解決策を提案する。システム構築者、運用者、ユーザー必読の一冊。第二刷好評発売中。

## 玉川大学出版部

▼山田礼子・木村拓也編著『学修成果の可視化と内部質保証―日本型IRの課題』（A5判・二三六頁・三七四〇円）  
二〇一〇年から一〇年間の実践を基に、IR、学生調査、ポートフォリオというツールを統合的に利用して高等教育の内部質保証の課題を整理し、グッドプラクティスを例示。今後の手がかりを探る。

▼鳥居朋子著『大学のIRと学習・教育改革の諸相―変わりゆく大学の経験から学ぶ』（A5判・一九二頁・四一八〇円）  
大学における学習・教育に関するマネジメントやIRの在り方を、主に個別大学のケース・スタディを紹介し、その方法から今後の姿を探る。コロナ禍での国内外の大学の取り組みも紹介する。

▼貞包英之著『サブカルチャーを消費する―20世紀日本における漫画・アニメの歴史社会学』（四六判・六二四頁・三七四〇円）  
二〇世紀、年少者たちは戦後家族の中に囲い込まれ「消費社会」から遠ざけられたが、漫画・アニメを消費することで社会規範へ反抗した。「消費社会」を超える夢や妄想を受け止め越えていく、全く新しいサブカルチャーの姿を探る。

## 中央大学出版部

▼ソラアット・ナパット著／大村雅彦監修『タイ破産法概説―日本法との比較』（A5判・五九六頁・二八五〇円）  
本書は、タイと日本の両方の破産法制に通じた専門家が、双方を比較しつつ日本語でタイの破産制度を論じた書物であり、研究者、タイに進出する日本企業の法務部員や涉外弁護士にとっても役立つ概説書。

▼松本悠子・三浦麻美編著『歴史の中の個と共同体』（A5判・五三〇頁・六三八〇円）  
共同体とは何か。古代オリエン、中近世のヨーロッパや中国、現代アメリカまでを射程に共同体がどのように形成され、その機能を果たしたのかを事例研究から論じる比較史への試み書。

▼有賀裕二編著『価値創造と分散型市場設計』（A5判・五一四頁・六七二〇円）  
AI技術は社会経済システムの基盤に浸透し「価値創造」もAI技術との共創の過程に入った。本書は、編者が中央大学大学院で二〇一一年度より一〇年間組織した留学生対象の英語講義を基礎としており、執筆者はこれら講義の担当者である。AI技術と複雑系科学の第一線で活躍する執筆陣による講義風の論文集。

## 東京大学出版会

▼駒場70年史編集委員会編『駒場の70年1949-2020―法人化以降の大学像を求めて』（B5判・四六八頁・六八〇〇円）  
ユニークな研究・教育体制のもと、優れた学術成果と有為な人材を輩出してきた東大駒場キャンパスの歩みを描く。教養学部創立七〇周年記念出版。

▼安藤宏著『太宰治論』（A5判・一二五六頁・一二〇〇〇円）  
激動の時代を忠実に生き、不器用さから時代錯誤を演じ続け、絶望を深めながら自身の宿命に殉じていく太宰治とその文学を総合的に解き明かす。太宰治論の決定版。

▼堀潤之・木原圭翔編『映画論の冒険者たち』（A5判・三二二頁・三八〇〇円）  
古典的映画論からフィルム・スタディーズの最新線まで、エッセンスを解説。第一線で活躍する映画研究者が執筆する映画論を知り学ぶための最強テキスト。

▼石見徹著『日本経済 衰退の構図』（四六判・三二二頁・三三〇〇円）  
「構造改革」が叫ばれた三〇年、日本経済凋落の構図を的確に捉え、複雑に絡み合った不振の要因を分析。日本経済の過去・現在・未来を明確に認識するための書。

## 東京電機大学出版局

▼牧野浩二・西崎博光著『たのしくできる 深層学習 & 深層強化学習による電子工作―TensorFlow編』（A5判・二五六頁・三〇八〇円）大好評既刊書のTensorFlow編。「電子工作×深層学習」をテーマとし、深層学習を電子工作で利用するための方法を紹介。電子工作と深層学習のどちらか一方の知識しか持ち合わせていない場合でも理解できるよう、電子回路と深層学習の双方について丁寧に説明。深層学習だけではなく深層強化学習までを幅広くカバー。深層学習フレームワークの内部構造を可視化すること、一層の理解が深まる。深層学習と電子工作を連携させた応用例も学べる。

▼類家正稔著『詳解 量子化学の基礎 第2版』（B5判・三三六〇頁・三二六〇〇円）基礎的な内容が網羅されており、大変わかりやすい教科書として好評の第2版。大学で初めて学ぶ数学の知識を前提とせず、数式の導入、変形、展開について詳しく解説。また直感的に理解できるように図を豊富に掲載。初学者の観点に立ち丁寧に解説。数学公式、物理定数表を収録し、本書のみで学習できるよう工夫した。

## 法政大学出版局

▼鳴海邦匡著『地図』（四六判・三三二頁・三三〇〇円）江戸時代以前から地図は暮らしに関わる場所の管理に欠かせない道具のひとつだった。近代的な測量技術が登場する前に作成されたものを中心に、日本の地図の長く豊かな歴史を辿る。

▼W・ホグレーベ著 浅沼光樹・加藤紫苑訳『述語づけと発生―シェリング『諸世界時代』の形而上学』（四六判・二三〇頁・三五二〇円）シェリングの未完の遺稿を英米言語哲学の諸ツールを用いて解釈し、その現代的意義を明らかにする。

▼刑部芳則著『セーラー服の誕生―女子校制服の近代史』（A5判・四〇〇頁・三三〇〇円）セーラー服の制服が生まれて百年。なぜ女学生たちはセーラー服にあこがれたのか。全国すべての高等女学校を調査した集大成。図版約百点、「全国高等女学校の洋式制服一覧」を付す。

▼Ph・セリエ著 道躰滋穂子訳『パスカルと聖アウグスティヌス 上・下』（四六判・一三八二頁・一四八五〇円）十七世紀キリスト教世界を背景に、聖書の世界の伝統的モチーフや護教論をめぐるパスカル固有の思考の総体を明らかにする。

## 武蔵野大学出版会

▼佐藤佳弘・スマイリーキクチ共著『ネット中傷 駆け込み寺』（A5判・二四八頁・一九八〇円）『脱！スマホのトラブル』『脱！SNSのトラブル』『インターネットと人権侵害』などの著者である佐藤佳弘先生（武蔵野大学名誉教授）と、タレントのスマイリーキクチ氏が、ネットの中傷の現状とトラブルに巻きこまれた際の対応策を、親しみやすいイラストと共に解説する。

◎YouTubeで解説動画配信中！

【検索ワード】武蔵野大学出版会 KAWARABAN



▼阿部和穂著『薬名「語源」事典』（B5判・七六〇頁・七四八〇円）その薬はなぜその名前がついたのか？「語源」一歴史「エピソード」から薬名の由来を解説。日本の医薬品1321点を網羅した、薬剤師国家試験対策にも最適な一冊。



## 武蔵野美術大学出版局

▼戸田裕介編『ペラペラの彫刻』（A5判・三二〇頁、三六三〇円）「構造を被覆する表面によって成立する彫刻の系譜を確認する」という共同研究に、彫刻家、美術史家、学芸員、計九名が集結。お堅い命題に頭を抱えて議論百出。ついに満場一致で「ペラペラの彫刻」として追究開始。道成寺の鐘の内側は、内なのか外なのか？ 禅問答に悩むごとく、ある者は触覚から、ある者は空洞から、ある者はピカピカから、ある者は時代の空気から：横山裕一に九つもの章扉を描かせ、溢れる彫刻愛が「読む彫刻」を生み出した。彫刻オタクによる愛の歌。

▼大浦一志著『雲仙普賢岳 被災民家跡を発掘する』（A4判・一七六頁、三八五〇円）一九九一年の雲仙普賢岳大火山流後、翌年の夏から一人のアーティストが東京と現地を往還して定点観測を続けている。本書は二〇一〇～一六年を中心とした「自然と人間、雲仙普賢岳との二五年」にわたるフィールドワークを約三〇〇点の写真により再現。その思索と行動と鎮魂のプロジェクトは、著者の生きざまそのものである。

## 明星大学出版部

▼須藤康介『教育問題の「常識」を問い直す―いじめ・不登校から家族・学歴まで―第2版』（四六判・二七〇頁・一九八〇円）本書は、様々な理論やデータを紹介し、世間一般で語られている教育問題のどれが本場で、どれが誤解なのかを検討して行く。そして、本当たししたらその解決方法、誤解だとしたら誤解が生じている理由を考える。



▼神林寿幸・樋口修資・青木純一『背景と実態から読み解く教育行財政』（A5・三四〇頁・二九七〇円）本書は豊富な資料、データをもとに背景と実態に着目しながら日本の教育行財政制度を詳細に解説する。初学者に加えて、教育行財政を専攻し、学位論文執筆にむけて研究テーマを探している、あるいは関連事項の理解を深めたいという学生、大学院生や教育行財政制度について学びたいという教育関係者におすすめしたい。

## 早稲田大学出版部

▼小山鉄郎著

『村上春樹の動物誌（早稲田新書3）』

▼濱田政則ほか著『国境なき技師団 スマトラ島から東北へ（早稲田新書4）』

▼山岸剛著

『東京バンデミック（早稲田新書5）』

▼田村修一著『凜凜烈烈 日本サッカーの30年（早稲田新書6）』

▼手塚孝典著

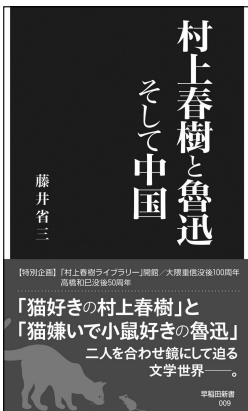
『幻の村（早稲田新書7）』

▼假屋崎省吾著

『絶対美感（早稲田新書8）』

▼藤井省三著

『村上春樹と魯迅そして中国（早稲田新書9）』



（各巻新書判・税込価格九九〇円）

## 関東学院大学出版会

▼仙葉 豊著『さまざまなるデフォー』（四六判・四五六頁・三三〇〇円）イギリス近代小説の起源に大きな役割を果たしたダニエル・デフォーは、曖昧な作家だといわれる。デフォーはさまざまな仮面を付け、さまざま声を借りて数多くの政治的パンフレットや小説を書いた。本書は、そのような、さまざまなるデフォーの小説の多様性を追求する。現在のコロナ禍において、第5章の疫病小説「ペスト」執筆時の時代背景やジャーナリストとしての疫病についての記述は、世紀を超えて今に通じるものがあり、大変興味深い。第一章 身の上相談と小説の起源 第二章 幽霊実話「ヴァイル嬢の幽霊」第三章 デフォーにおけるフィクションの始まりと終わり 第四章 クルソーとガリヴァー 実話からフィクションへ | 第五章 疫病小説「ペスト」第六章「モル・フランダース」のカズイストたち 第七章「カーネル・ジャック」とピカレスク小説の変貌 第八章 アンチ・ロマンスとしての「シングルトン船長」第九章「ロクサーナ」と悪魔の誘惑 第一〇章「ジョナサン・ワイルド」と犯罪小説

## 名古屋大学出版会

▼後藤里菜著『へ呼び』の中世キリスト教世界における救い・罪・靈性（A5判・三六四頁・五九四〇円）中世ヨーロッパは叫び声に満ちていた。修道士や「敬虔な女性たち」から少年十字軍の参加者まで、中世ヨーロッパに響き渡る多様な〈声〉に耳を傾け、靈性史・感情史の新生面を切り拓く気鋭の力作。

▼ブノワ・ゴダン著／隠岐さや香解説／松浦俊輔訳『イノベーション概念の現代史』（四六判・二一六頁・三九六〇円）現代社会のキーワードとして君臨する「イノベーション」。いかにして考え出され、政策や経営に組み込まれていったのか。また、研究はどのように商業化に巻き込まれたのか。科学・技術の「有用性」を問い直す、私たちの時代の概念史。

▼谷村省吾著『量子力学10講』（A5判・二〇〇頁・二九七〇円）肝心な筋道だけをコンパクトにまとめた、待望の教科書。古典力学との対応にこだわることなく、量子力学をそれ自身で完結したものとして捉え、確率振幅からエンタングルメントや調和振動子まで、明快に記述。線形代数がわかれば、量子力学もわかる！

## 名古屋外国語大学出版会

▼沼野充義・藤井省三編『囚われて 世界文学の小宇宙2』（四六判・三二八頁・二四二〇円）ロシア・アヴァンギャルドの雄フレイブニコフ「虜囚」、台湾の人氣作家・李昂「モダンダンス」、ポーランドの過激な青春小説・ヒュレの「初恋」、イタリア・サルデーニャの女流ノーベル賞作家デレッダ「夜に」、アイルランドのラヴィン「ブリジッド」など、初訳新訳の読み応えある短編一二作品。



▼名古屋外国語大学出版会編『アフターハイスクール』（A5判・一三四頁・予価一三〇〇円、一月刊）若者たちのためのコトバと文化と社会へのガイダンス、プレゼンテーション。韓国語、フランス語、アラビア語、中国語、ベトナム語など、一四言語の特徴と面白さ、歴史や生物、ボランティア活動、音楽、ファッション、グルメ……これから生きていくあなたのお役立ちヒント満載・フルカラー版。

## 京都大学学術出版会

▼安村典子著『ゼウスの覇権』（A5判・四一〇頁・五二八〇円）ホメロスではすでに最高神として描かれるゼウス。しかしトロイア戦争のあったミケナナイ時代の粘土板、線文字B文書では最上位にあったという証拠はない。ゼウスがいかにして覇権を獲得するに至ったかを、初期の古典文献を駆使しながら解明する。

▼稲岡司編『病む・癒す』（生熊人類学は挑むセクション、A5判・三四〇頁・三七四〇円）進化はなぜ病気を克服してこなかったのか？人類にとって病とは悪なのか？チンパンジーの病から、各地の伝統医療、人間集団の環境への適応と進化まで、コロナ禍に見舞われる今、ヒトと病の闘争と共生を問い直す。

▼河合文著『川筋の遊動民パテツ』（生熊人類学は挑むモノグラフ、A5判・三三〇頁・三五二〇円）川の名を子に授け、自分の川で死んでゆく。常に川とともにある彼らの空間認識は東西南北でも右・左でもない。上流下流、のぼるくだる、山側川側という三つの方位軸と身体感覚によって、私たちが見たことのない縦横無尽の風景が立ち上がる。

## 大阪大学出版会

▼橋爪節也・宮久保圭祐編著、大阪大学総合学術博物館叢書18『EXPO'70 大阪万博の記憶とアート』（A4判・一二〇頁・二八六〇円）鮮烈な記憶を残した70年大阪万博の50周年に見えてきた、当時の批判、万博後の問題、地域にもたらしたものの、「夜のイベント」・「具体美術まつり」やよみがえった「音響芸術」等のアートの記憶とともに万博をたどる。

▼小林悠太著『分散化時代の政策調整内閣府構想の展開と転回』（A5判・二一四頁・四五一〇円）省庁官僚制の縦割り行政を超えた総合調整を行うカギ、内閣府。重要政策の司令塔として機能してきたその成立背景を明らかにし、省庁官僚制では応じられなかった行政需要を引き受けてきた意義を示す。

▼林高弘著『超音波による非破壊材料評価の基礎』（A4判・一六六頁・三六三〇円）実際に非破壊検査を実施している実務家あるいは技術開発に携わっている技術者、学生にも、技術体系の学び直しに絶好の著作。

## 関西大学出版部

▼西川知亨著『初期シカゴ学派の人間生態学の展開―総合的社会認識の社会学』（A5判・三二二頁・四四〇〇円）今や古典の社会学理論であるとされる、初期シカゴ学派の人間生態学を賦活させ、総合的社会認識の社会学による視点を引き出す。さらに、激動の社会状況における問題把握や、社会的コントロールの方法を探る。社会学史研究を通じて、現代社会や社会福祉の分析に活かすことを目指した、意欲的な書。



▼伊藤誠宏著『17世紀フランス文法家証言集VII―形容詞』（A5判・三五八頁・五〇六〇円）17世紀フランス文法家における形容詞への見解を収集した資料文献集。近代フランス語の形成に寄与した人々が、どのような考えで国語を精査・洗練し、作り上げようとしていたかを本書から感知できる。また、近代フランス語の形成過程を知るのに役立つ書である。

## 関西学院大学出版会

▼豊田周子著『台湾女性文学の黎明―描かれる対象から語る主体へ 1945―1949』（A5判・二四八頁・五二八〇円）歴史の間に埋もれた台湾女性の主体的な文芸活動を文学研究の立場から掘り起こし、彼女たちの声を文学史に位置づける試み。



▼佐竹隆幸著／関智宏編『中小企業政策―持続可能な経営と新しい公共』（A5判・三六四頁・三九六〇円）失われた20年を経て中小企業が持続的に経営していくことができるための政策のあり方を経営実践の観点から実証した政策論。  
▼クルト・ノヴァク著／加納和寛訳『評伝アドルフ・フォン・ハルナック』（四六判・二三〇頁・四一八〇円）近代プロテスタント神学の大家にしてヴィルヘルム帝政期のドイツの教育・文化行政を率いたアドルフ・フォン・ハルナックの小伝。

## 九州大学出版会

▼高山百合『近代日本洋画史再考―「官展アカデミズム」の成立と展開』（A5判・二二八頁・四九五〇円）等閑視されてきた官展系美術作品の分析を通じ、日本美術史の新たな面を照らし出す。

▼辻野裕紀『形と形が出合うとき―現代韓国語の形態音韻論的研究』（A5判・三二〇頁・七九二〇円）韓国語の面白さの神髄は形態音韻論にある。新進気鋭の言語学者による日本初の本格的 연구書。  
▼熊野直樹・田嶋信雄・工藤章編『ドイツ―東アジア関係史 一八九〇―一九四五―財・人間・情報』（A5判・三四二頁・六八二〇円）ドイツを介して見えてくる、激動の東アジア史の真実。

▼磯田桂史『明治期熊本洋風建築史』（B5判・一七二頁・六九三〇円）近代化遺産を含む明治熊本の洋風建築にターゲットを絞り、写真や図面を駆使してその動向を記す。  
▼見館好隆監修・著／保科学世ほか著『新しいキャリアデザイン―ニューノーマル時代をサバイブする』（A5判・一六〇頁・一九八〇円）テレワーク対応型スキルを学ぶ、キャリア教育の教科書。

## 編集後記

▼特集では小中学校の授業のあり方から大学の教材まで、四名の論考によって現在のリアルと未来への展望をみた。紙とデジタルはどちらがよいのか、学習効率は何ほどか、という議論ももちろん重要だが、ツールの話はやはり「人をどう育むのか」というところにつながる。ならば不毛な議論にもなりかねない、と改めて考えさせられる。

▼「授業のデジタル化が進んでも先生の仕事は残りつづける」と島田英昭氏の論考では説かれている。しかしその仕事は講義から教材利用のサポートへと変化していくだろうと予測する。至れり尽くせりの教材によって個別学習を進めることはできるだろうが、では、いま自分に必要なものは何なのか？ その見極めできまづく人は多いだろう。

▼充実したツールがあっても選択し使いこなせるか、物事を正確に捉え自力で判断することは大人子ども関係なく難しい。その力をどのように育んでいくのか。コロナ禍を契機とした変化の中、社会も教育も過渡期にある。ここで冷静に考えた、と思えば本特集と成った。

- ダイニック(株) 〒105-0004 東京都港区新橋6-17-19 新御成門ビル  
TEL 03-5402-1811 <https://www.dynic.co.jp>
- (株) 太平印刷社 〒140-0002 東京都品川区東品川1-6-16  
TEL 03-3474-2821 <http://www.p-taihei.co.jp>
- (株) 太 洋 社 〒501-0431 岐阜県本巣郡北方町北方148-1  
TEL 058-324-2111 <https://www.p-taiyosha.co.jp>
- (株) 竹 尾 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-12-6  
TEL 03-3292-3617 <https://www.takeo.co.jp>
- (株) 東京弘報社 〒101-0051 東京都千代田区猿楽町1-2-1  
TEL 03-3291-1771
- (株) とうこう・あい 〒104-0061 東京都中央区銀座7-13-12 サクセス銀座7ビル4F  
TEL 03-5148-7200 <https://www.toko-ai.com>
- 東光整版印刷(株) 〒135-0006 東京都江東区常磐2-12-15  
TEL 03-3632-0801
- (株) トーヨー企画 〒602-0923 京都府京都市上京区油小路通中立売上ル 油橋詰町93-7  
TEL 075-411-8288 <https://www.talligent.jp>
- 図 書 印 刷 (株) 〒114-0001 東京都北区東十条3-10-36  
TEL 03-5843-9700 <https://www.tosho.co.jp>
- (株) 日新広告社 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-12-10 喜久屋ビル3F  
TEL 03-3263-9431 <http://www.nissinkoukokusyua.com>
- (株) 日本経済新聞社 〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7  
TEL 03-6256-7528 <https://www.nikkei.co.jp>
- 日本宣伝販売(株) 〒330-0856 埼玉県さいたま市大宮区三橋3-278  
TEL 048-620-1021 <http://www.nihon-senden.jp>
- (株) 博 報 堂 〒107-6322 東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー19F  
TEL 03-6441-6711 <https://www.hakuhodo.co.jp>
- 藤 原 印 刷 (株) 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-4-5  
TEL 03-3291-0191 <https://www.fujiwara-i.com>
- (株) 平 文 社 〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-35-7  
TEL 03-3944-0301 <http://www.heibun.co.jp>
- (株) 毎日新聞社 〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1  
TEL 03-3212-3340 <https://www.mainichi.co.jp>
- 誠 製 本 (株) 〒174-0042 東京都板橋区東坂下1-19-5  
TEL 03-3967-3952 <http://www.makoto-seihon.com>
- 名 鉄 局 印 刷 (株) 〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南3-13-23  
TEL 052-561-3272 <http://www.meitetukyoku.co.jp>
- (株) 遊 文 舎 〒532-0012 大阪府大阪市淀川区木川東4-17-31  
TEL 06-6304-9325 <http://www.yubun.co.jp>
- (株) 読売新聞東京本社 〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1  
TEL 03-3242-1111 <https://www.yomiuri.co.jp>

一般社団法人大学出版部協会は、私たちの活動をご理解・ご支援くださる皆様による「賛助会員」制度を設けています。ここに趣旨にご賛同くださり、ご支援いただいている各社様をご紹介します。なお、「賛助会員」に関するお問い合わせは、協会事務局までお寄せください。

## 一般社団法人 大学出版部協会 賛助会員名簿

---

- (株)朝日新聞社 〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2  
TEL 03-5540-7749 <https://www.asahi.com>
- 亜細亜印刷(株) 〒380-0804 長野県長野市大字三輪荒屋1154  
TEL 026-243-4858 <http://www.asia-p.co.jp>
- (株)アベル社 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2-19 銀鈴会館408  
TEL 03-3235-1360 <https://www.abel-sha.com>
- 尼崎印刷(株) 〒661-0975 兵庫県尼崎市下坂部3-9-20  
TEL 06-6494-1122 <http://www.amain.co.jp>
- (株)ALE 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-8-6 日本橋ビル4階  
TEL 03-5652-8627 <http://www.adv-logi-eng.co.jp>
- 王子製紙(株) 〒104-0061 東京都中央区銀座4-7-5  
TEL 03-3563-7072 <https://www.ojipaper.co.jp>
- (株)加藤文明社印刷所 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-15-6 K-STAGE  
TEL 03-3261-8281 <http://www.bunmeisha.co.jp>
- 城島印刷(株) 〒810-0012 福岡県福岡市中央区白金2-9-6  
TEL 092-531-7102 <https://www.kijima-p.co.jp>
- (株)桑川印刷 〒112-0012 東京都文京区大塚6-9-7  
TEL 03-3943-9811 <http://www.kumekawa.jp>
- 株式会社クリムゾングラフィックジャパン 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10 第2電波ビル4F  
TEL 03-3525-8001 <https://www.crimsonjapan.co.jp>
- 港北出版印刷(株) 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-7-7  
TEL 03-5466-2201 <http://www.kohoku.co.jp>
- 三松堂(株) 〒101-0065 東京都千代田区西神田3-2-1 住友不動産千代田ファーストビル南館14階  
TEL 03-6823-5360 <https://www.sanshodo.co.jp>
- 三美印刷(株) 〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-9-8  
TEL 03-3803-3131 <https://www.sanbi.co.jp>
- 三立工芸(株) 〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-2-10 寺西ビル3F  
TEL 03-3261-5171 <https://www.sanritsu-net.co.jp>
- 三和印刷(株) 〒381-2226 長野県長野市川中島町今井1822-1  
TEL 026-285-2300 <http://www.sanwaprinting.jp>
- 信濃印刷(株) 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-1-11  
TEL 03-3237-3601 <http://www.shinano-insatsu.co.jp>
- (株)渋谷文泉閣 〒380-0804 長野県長野市三輪荒屋1196-7  
TEL 026-244-7185 <http://www.bunsenkaku.co.jp>
- (株)眞興社 〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町19-2  
TEL 03-3462-1181 <https://www.shinkousha.co.jp>
- 新日本印刷(株) 〒162-0801 東京都新宿区山吹町342  
TEL 03-3269-3611 <https://www.sinnihon.net>
- (株)精興社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-9  
TEL 03-3293-3021 <https://www.seikousha-p.co.jp>
- 創栄図書印刷(株) 〒604-0812 京都府京都市中京区高倉通二条上ル天守町766  
TEL 075-255-2288 <https://www.soei-pb.co.jp>
- 大同印刷(株) 〒849-0902 佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20  
TEL 0952-71-8550 <https://www.daidou-jp.com>
-

●グローバル化時代の憲法／憲法学のあり方を包括的に考察・展望

## グローバル化のなかで考える憲法

横大道聡・新井誠・菅原真・堀口悟郎編著 変容を迫られる憲法（学）の主要テーマにつき「これまで」の議論を踏まえ「これから」を探る 23 の必読テキスト。4510 円

●グローバル化がもたらす法理論の新たな可能性を探る！

## 公共紛争解決の基礎理論

 《行政法研究双書 40》

原田大樹著 民・刑事法との比較研究の成果を行政救済法理論と接合しつつ、グローバル化との関係を包括的に扱う。理論的展開への起爆剤となる注目の書。5500 円

●“人権先進国”ドイツのコロナ対応は自由・人権とどう折合いをつけたか

## コロナ危機と立法・行政

 —ドイツ感染症予防法の多段改正から

横田明美著 必然的に自由・人権と衝突するコロナ対応でドイツではいかなるバランス感覚が働いていたのかを、感染症予防法の多段改正から跡付ける。3520 円

●実務と理論をリードする逐条解説書、待望の最新版！

## 条解 独占禁止法

 〈第 2 版〉

【編集代表】村上政博／【編集委員】石田英遠・川合弘造・渡邊恵理子・伊藤憲二  
実務の最前線で活躍する 5 大法律事務所の弁護士と研究者の協働によって作り上げた注釈書の決定版。法改正や判例法の展開、実務の変化に応えた改訂版。17600 円

●現代経済法の最新テーマに多様な視角からアプローチ！

## 現代経済法の課題と理論

 《金井貴嗣先生古稀祝賀論文集》

【編集委員】土田和博・山部俊文・泉水文雄・川瀨昇・河谷清文 第一線で活躍する研究者・実務家 35 名が、更なる学問的発展をめざして寄稿した力作論文集。13200 円

●わが国倒産法学に斬新な発想を持ち込む果敢な研究の成果！

## オーストラリア倒産法

金春、ステイシー・スティール著 全体像を概観するとともに、具体的な争点につき、近年の法改正もふまえ分析・検討。最新のオーストラリア倒産法に迫る。5500 円

●血縁ではなく意思や機能で、第二の親＝父になれるのか！？

## アメリカにおける第二の親の決定

山口真由著 子との血縁、母との婚姻、父となる意思、親としての機能。父とは何かにつき、複数の答えが浮上するアメリカ法を検証し、父子の本質に迫る。5500 円



弘文堂

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-7 ©表示価格は税込

Tel. 03-3294-4801 / Fax. 03-3294-7034 <https://www.koubundou.co.jp/>

# 一般社団法人 大学出版部協会 加盟出版部一覽

## ◎北海道大学出版会

〒060-0809 札幌市北区北9条西8丁目  
北海道大学構内  
TEL 011-747-2308 FAX 011-736-8605

## ◎弘前大学出版会

〒036-8560 弘前市文京町1番地  
弘前大学附属図書館内  
TEL 0172-39-3168 FAX 0172-39-3171

## ◎東北大学出版会

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1  
東北大学構内  
TEL 022-214-2777 FAX 022-214-2778

## ◎流通経済大学出版会

〒301-8555 龍ヶ崎市中畑120  
TEL 0297-60-1167 FAX 0297-60-1165

## ◎聖徳大学出版会

〒271-8555 松戸市岩瀬550  
TEL 047-365-1111 FAX 047-363-1401

## ◎慶應義塾大学出版会

〒108-8346 港区三田2-19-30  
TEL 03-3451-3168 FAX 03-3451-3124

## ◎専修大学出版局

〒101-0051 千代田区神田神保町3-10-3  
TEL 03-3263-4230 FAX 03-3263-4288

## ◎玉川大学出版部

〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1  
TEL 042-739-8935 FAX 042-739-8940

## ◎中央大学出版部

〒192-0393 八王子市東中野742-1  
TEL 042-674-2351 FAX 042-674-2354

## ◎東京大学出版会

〒153-0041 目黒区駒場4-5-29  
TEL 03-6407-1069 FAX 03-6407-1991

## ◎東京電機大学出版局

〒120-8551 足立区千住旭町5番  
TEL 03-5284-5385 FAX 03-5284-5387

## ◎法政大学出版局

〒102-0073 千代田区九段北3-2-3  
法政大学九段校舎内  
TEL 03-5214-5540 FAX 03-5214-5542

## ◎武蔵野大学出版会

〒202-8585 西東京市新町1-1-20  
武蔵野大学構内  
TEL 042-468-3003 FAX 042-468-3004

## ◎武蔵野美術大学出版局

〒180-8566 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7  
TEL 0422-23-0810 FAX 0422-22-8309

## ◎明星大学出版部

〒191-8506 日野市程久保2-1-1  
TEL 042-591-9979 FAX 042-591-9254

## ◎早稲田大学出版部

〒169-0051 新宿区西早稲田1-9-12  
TEL 03-3203-1551 FAX 03-3207-0406

## ◎関東学院大学出版会

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1  
TEL 045-786-5906 FAX 045-785-9572

## ◎名古屋大学出版会

〒464-0814 名古屋市千種区不老町1  
名古屋大学構内  
TEL 052-781-5027 FAX 052-781-0697

## ◎名古屋外国語大学出版会

〒470-0197 日進市岩崎町竹ノ山57  
名古屋外国語大学内  
TEL 0561-75-2503 FAX 0561-75-1723

## ◎京都大学学術出版会

〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町69  
京都大学吉田南構内  
TEL 075-761-6182 FAX 075-761-6190

## ◎大阪大学出版会

〒565-0871 吹田市山田丘2-7  
大阪大学ウエストフロント  
TEL 06-6877-1614 FAX 06-6877-1617

## ◎関西大学出版部

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35  
TEL 06-6368-0238 FAX 06-6389-5162

## ◎関西学院大学出版会

〒662-0891 西宮市上ヶ原一番町1-155  
TEL 0798-53-7002 FAX 0798-53-5870

## ◎九州大学出版会

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-8-34  
九州大学産学官連携イノベーションプラザ305  
TEL 092-833-9150 FAX 092-833-9160

## ◎大阪経済法科大学出版部(休会)

〒581-8511 八尾市楽音寺6-10  
TEL 072-941-9129 FAX 072-941-9979

【発行所】

一般社団法人 大学出版部協会  
ISSN 0913-3305  
振替 00170-8-389131

〒102-0073

東京都千代田区九段北1丁目14番13号  
メゾン萬六403号室  
TEL 03-3511-2091 FAX 03-3511-2092  
E-mail : mail@ajup-net.com  
URL : <https://www.ajup-net.com/>

【表紙デザイン】 奥定泰之

【表紙写真】

デジタル化による教科書の変化と、紙との共存



\*本誌のバックナンバーは、大学出版部協会の公式HPでも、PDF版を全文無料でダウンロードできます

大学出版129号 (2022年冬)

2022年2月1日発行

頒価100円(千共)